

ノーリフティングケア2年目の取り組み

～歩みを止めずに、マイペースに少しずつ～

社会福祉法人 学而会
特別養護老人ホーム
サンシャインプラザ



当施設の特徴

- ユニット型
(3フロア12ユニット)
- 入所100名
- ショートステイ10名
- 介護職員数57名
(男性22名女性35名)



ノーリフティングケア1年目の取り組み

ノーリフティング開始前の課題

- 福祉用具はあるが、正しい使い方や使う頻度が少ない
- 持ち上げる、抱える事が中心の介護ケア
- 介護中に起きる腰痛や事故が目立った

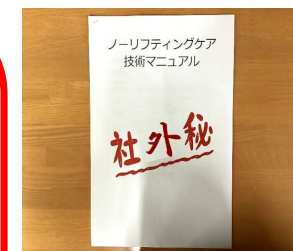
ノーリフティングケア1年目の実践によって

- 福祉用具の正しい使い方が身に付き、使用頻度が増えた
- ノーリフティングケアの技術への興味が出てきた
- 腰痛予防や事故防止の意識が出てきた

統一したケアへの試み

ケアの手順や介護技術のマニュアルがなく、職員個人個人の理解度や技術のバラつきが課題だった・・・。

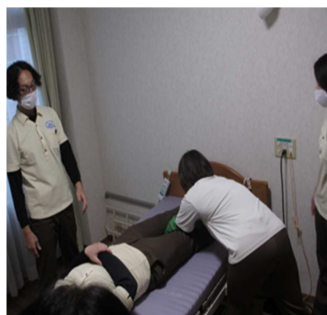
- 介護技術（福祉用具を含め）の理解度をチェックする為、施設独自のマニュアルを作成した。
- ユニット全体で、ケアの手順を決め、準備や福祉用具の使用方法を統一し、見える化を行った。



勉強会の実際



- 毎日のケアで必ず行う介護技術に絞って実技研修を繰り返し行った。



福祉用具を自ら作ってみる！

福祉用具を増やす為、使用することの意識をさらに定着させる為、研修会で知識を得たダントールを制作し、使用してもらう事にした。
(プラスチック段ボール、ナイロン生地を使用して制作)



ダントールの使用の実際



①



②



③



④

ダントールを使用した職員の声

- 思った以上に丈夫で滑らせやすい。
- 正しく使えば楽に移乗ができると再認識できた。
- 利用者にとっても負担が少なくケガも起こりにくい。
- 正しい位置に簡単に着座でき、慣れると座り直しも必要ない。
- 安定するので安心して移乗できる。
- 今まで一人介助が当たり前で大変だったが、これからは安心して移乗が出来る。 etc.

福祉用具を使う事が当たり前、使わなくちゃ自分たちが大変! という意識に変わってきた

福祉用具の増加に向けて

福祉用具を導入し、各ユニットで使用してみた結果、増やして欲しいという声やリフトの導入をして欲しいとの強い要望が出てきた。

1年目終了時点での福祉用具数

フレックスボード	3枚
スライドボード	2枚
スライディングシート	5枚
スライディンググローブ	8枚
リフト	0台
ハグ	0台

2年目終了時点での福祉用具数

フレックスボード	7枚
スライドボード	8枚
スライディングシート	23枚
スライディンググローブ	26枚
リフト	0台
ハグ	0台

現在、リフト購入、レンタルでの導入に向けて交渉中!

自立支援・重度化防止の取り組み

(令和6年度施設重点目標のひとつ)

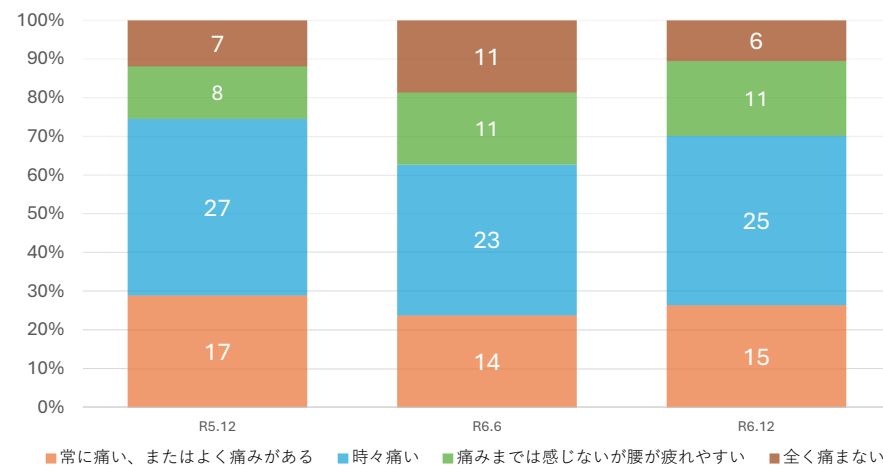
- 腰痛防止の観点のみでなく、利用者の自立支援、ADL低下防止を目指したノーリフティングケア



スライディングボード使用の際、突っ張り棒式の手すりを使用することによって利用者自らの立ち上がりの動作も保ちながら移乗介助を行う事に繋がった

腰痛アンケートの結果

腰痛アンケート結果 (R5.12～R6.12)



取り組みとしては行っているのに初めに掲げた「腰痛ゼロ！」が思うように進んでいない…⇒まだまだ取り組みが足りない！！

2年目の成果

- 手作りではあるが、福祉用具をなんとか使用しようとする業務改善への取り組み意識の芽生え
- 現場主導で勉強会を実施し、マニュアル作成などが進んできたこと
- この福祉用具が欲しい！という声が現場から出始めたこと

課題

- 福祉用具（特にリフト）の導入
- 年間計画を実行する体制
- 現状の課題を解決するためのスピード感

今後の展望

- ノーリフティングに関する知識・技術の全体への波及の道しるべとして「モデルユニット」を設定する。意識高い職員を巻き込み現場主体とする。
- ノーリフティング委員個々で課題の明確化、問題意識の共有を図る
- 必要な福祉用具の購入や自作などを増やし、負担の少ないケアに努める。

利用者ファーストに！
職員も働きやすい環境を目指して！

